USER'S VOICE

見過ごされてきたサージカルスモークの危険性
～女性ヘルスケア・生殖医療専門医の立場から～

東京都立東部地域病院 婦人科 医長

尾﨑 理恵 先生

【学歴および職歴】

2008年3月　順天堂大学 医学部 卒業
2017年3月　順天堂大学大学院 卒業
2017年4月　順天堂大学 医学部 産婦人科学講座 助教
2022年4月　東京都立東部地域病院 婦人科 医員
2026年2月　東京都立東部地域病院 婦人科 医長

【資格】

日本産科婦人科学会 専門医・指導医
日本産科婦人科内視鏡学会 腹腔鏡技術認定医
日本内視鏡外科学会 技術認定医
日本女性医学学会 女性ヘルスケア専門医
日本生殖医学会 生殖医療専門医
日本スポーツ協会 公認スポーツドクター

ご所属は2026年3月時点の情報です

はじめに

サージカルスモークは化学・生物学的有害物質を含む職業曝露リスクであり、術者のみならず麻酔科医・看護師・患者にも影響が及ぶ。国内外のエビデンスと法制化の潮流を踏まえ、排煙装置の使用は「推奨」ではなく「必須」の安全対策と位置づけるべきである。私の目標は「患者・医療従事者・環境、全てに優しい医療の実践」と掲げているが、その取り組みの一つがサージカルスモーク対策である。排煙装置の使用は必須の安全対策であり、全術式への標準化と教育・制度整備が必要である。

東京都立東部地域病院の手術特性とサージカルスモークを知るきっかけ

東京都立東部地域病院（以下、当院）は病床数314床、手術室4室、手術支援ロボットda Vinci Xi 1台を備えており、手術室の稼働率は約75%である。婦人科の手術件数は年間550件程度。腹腔鏡下手術がメインで、近年ロボット手術や経腟的腹腔鏡手術（vNOTES）などの新しい手技も導入している。当院の特徴に骨盤臓器脱（POP）専門外来の存在がある。ウロギネのエキスパートである永井富裕子先生と青木志保先生に今もその指導を受けているが、POPの手術は様々なものがあり、腟式手術が多いのも特徴である。
腟式手術では「煙」の発生が多く、においだけでなく術中・術後に咳などの呼吸症状を感じたこと、順天堂大学で研修していた時代にも筋腫核からのスモークで健康被害を感じている上司がいたこと、そして腟式手術と腹腔鏡下手術の融合のような形のvNOTESでは、エネルギーデバイスの煙がこもりやすい環境であることからサージカルスモークに関心をもつようになった。